

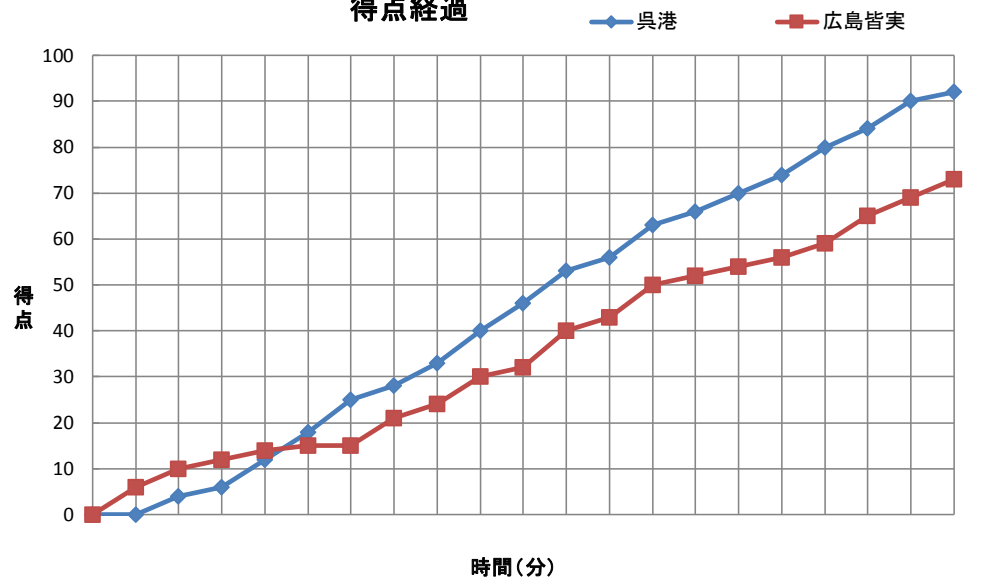


第74回広島県高等学校総合体育大会
バスケットボールの部

個人トータル表

男子		令和3年6月6日		15:00 開始									
決勝		福山大学		0									
◎ 呉港 (広島県)		92		73 広島皆実 (広島県)									
		18 1st 15											
		28 2nd 17											
		24 3rd 22											
		22 4th 19											
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
8	宇江 照	-	-	-	-	-	4	梶谷 吾織	-	-	-	-	-
11	安浦岡 悠葵	-	-	-	-	-	5	梶原 琉夏	0	0	0	0	0
13	佐々木 悠翔	-	-	-	-	-	* 6	定森 琉汰	13	3	1	2	5
* 14	佐古 竜誠	23	0	7	9	4	* 7	柿村 香佑	16	1	6	1	3
* 15	溝手 晴起	2	0	1	0	3	* 8	出野 龍太郎	16	0	5	6	2
* 16	大瀬 優尚	14	0	7	0	2	9	高山 涼介	-	-	-	-	-
23	坂本 優大	-	-	-	-	-	10	篠原 広照	2	0	1	0	3
* 27	井上 晃成	29	5	6	2	1	11	入江 飛羽	0	0	0	0	0
28	塚迫 光成	4	0	2	0	1	12	南 政 冴	-	-	-	-	-
31	森岡 竜登	-	-	-	-	-	* 13	中水 元基	14	0	6	2	3
34	守下 高明	-	-	-	-	-	* 14	梶谷 崇太	10	1	3	1	2
35	ディオップモハメドラソール	12	0	6	0	3	15	大福谷 翼	2	0	1	0	1
48	柴村 晃太	-	-	-	-	-	16	広瀬 琉星	-	-	-	-	-
* 77	ディオップセリヌサリヌ	8	0	3	2	4	17	小田 悠人	-	-	-	-	-
88	酒井 翔麻	-	-	-	-	-	18	伊達 奏汰	-	-	-	-	-
コーチ	加藤 博					0	コーチ	藤井 貴康					0
Aコーチ	加藤 洋子						Aコーチ	東 昌隆					
合計		92	5	29	11	14	合計		73	5	23	12	19
主審: 大谷 英紀													
副審: 山住 泰光													
副審: 北川 祐大													

得点経過



CTO	1・2P		3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	2:25	17:10	26:48	34:30	:	:	:	:
TeamB	11:57	15:55	24:32	31:41	35:44	:	:	:

〔戦評〕 男子決勝 中国新人覇者の呉港と県総体6連覇中の広島皆実の対戦。攻撃力と高さの呉港対堅い守りとスピードの広島皆実の対戦となった。

スタートは、呉港が#14、#15、#16、#27、#77。広島皆実が#6、#7、#8、#13、#17。

第1Q 両チーム共にマンツーマンでスタート。広島皆実が#13のレイアップで先制。硬さの見える呉港は中々シュートが決まらない。対する皆実は堅い守りから速い展開に持ち込み、8-0とリードしたところで、呉港タイムアウト。その後、呉港は落ち着きを取り戻し、#27、#16、#14が得点を重ねてペースを掴む。18-15呉港リードで第1Q終了。

第2Q 立ち上がりから呉港#27がバスケットカウント、3Pと連続得点し、リードを広げる。25-15呉港リードとしたところで、皆実たまずタイムアウト。皆実が#6と#7の3Pなどで得点するも、呉港は#27と#14の個人技が冴えわたり流れを渡さない。皆実がディフェンスの強度を上げて流れを引き寄せたいが、ファールが嵩んで厳しい時間が続き、呉港10点リードでゲームが進む。終盤にも呉港#27が、連続得点や絶妙なアシストで完全にゲームを支配し、46-32呉港リードで前半終了。

第3Q 呉港は#14、#27の個人技、皆実が#6の連続3P、#8のリバウンドショットなど、互いに点を取り合う展開となる。なんとか点差を縮めたい皆実は、運動量を上げて仕掛けにかかる。ところが呉港は球際に強さを見せ、点差は縮まらない。終盤、呉港#16がゴール下で粘り強く連続得点し、70-54呉港リードで第3Q終了。

第4Q 点差を縮めたい皆実は、3Pを多投するも決まらない。対する呉港は、#35がゴール下で連続得点し、20点リードとする。皆実がオールコートでのディフェンスで食い下がるも、呉港#28が燦銀の働きを見せ、追従を許さない。最後の最後まで互いに運動量と強度が高いまま、ギリギリバチバチの拮抗した試合となった。92-73で試合終了。

負けはしたが、豊富な運動量でハードワークし、平面で勝負する広島皆実伝統のスタイルは、素晴らしかった。点差は19点と開いたが、早い時間帯でファールが嵩まなければまた違った展開であっただろう。

初優勝を飾った呉港は、#14と#27を中心に終始攻撃的に試合を運んだ。それを支えた#16、#77などの献身的なプレーも素晴らしかった。インターハイでは上位進出を期待したい。

戦評: 横田 学

記録: